武德成業　十一

内閣文庫
番號　和 15251
冊數　63（11）
函號　150　12

内閣文庫
和書
類　一五二五一
號
冊　六三
函　五〇
架　四

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

武德成業卷之十一

武德大成

伯耆守加藤正脩編

浅草文庫

六月　神君兵ヲ二股ニ出シテ攻城ノ策ヲ相議シテ砦ヲ毘沙門堂鳥羽山和田嶌蜷原ニ築テ是ニ逼テ二股ノ城ヲ攻ム守城依田下野兵ヲ城外ニ出シ小川ヲ隔テ防キ戦フ

柏崎物語

木原ヲ代ゝ大工少ゝ在列木原は者也上意少て木原を名字を列二股城依田下野守信蓋より入道世父子法濃の芳田小左衛門ある所人芳田

神君六月二日小笠原の野山城所を陣少ゝ在歳愛ル

攻小後ゝ城を対ゝ出ゝ木叶引鉄炮少て

清水松平表九郎朱提対抗指物ハ城ヘ入歌を得
友しん清水ハ城ヘ入ると胡桃系清兵衛討死す
内蔵頭長右衛門系清兵衛を討取
是も射殺して横井庄助菊地に対抗指物とさし
表九郎の兜鞍を城ヘ九と追詰て表九郎の首を
元忠公も働を　神君家康御覧ありて
上意ハ味方対陣ハ敵味方の東西指物歌ハ右小ぶり
落ちこれを取て是ハ取敵の雨れとき鉄炮の中を事た
せ作ると引入て働ハ右指物折ま落る小者取て

来る庄助ハ此が語なり
続閑談
是別二股城攻ハ　横堀様ハ名取山に北ハ清水城と
名取山ハ名取小川ハ胡桃ハ御小勝次首一級討元忠城を
自焼仕引揚ハ知小歌ハ貞を信次近藤弥上貞有
くの武蔵の指物ハ横井小ハ
御家ある内小貞を引ハ歌一の九の右衛門指物
入貞ハ未世多郎兵ヘ九ハ知を勝次と対長と取て二前
祝ハ別首を取ハ知を内小勝次ハ指物を手折く
右ハ兜鞍小ぶり前ハ知ハ又六間引退ハ

ニ尉若年にハ小こその是を知らせられハ又証ゆり若狗を取て
多羽山へ首級を持来り候ハ上意ニハ今此働去に今ニ始め
さるよ稀なれ共去ては源八手へ入りしとて遠州の神明村上養
地村下惣地村ニ有る木村ニ内出雲と申者を小者にて召出候
ひ立けて取立内田喜右衛門と申けれハ

落穂集

二俣籠日二股の城ニ依田方か前田内蔵か射る矢に札を附置
其札調を書添石川日向守家成か方へ送りしに依してを打上
けれハ　家康公源右衛門射術武勇兼たる者有所感の
作りて出陣役をさせられし也

感状記

源君遠州二股ノ城ヲ攻給フニ一陣本多平八郎忠勝二陣榊原小平太康政三陣本多作左衛門重次四陣大須賀五郎左衛門康高ナリ時ニ内藤四郎左衛門正成誤テ足ヲ折損シテ不能従師留リテ濱松ノ城ヲ守ル　源公二股ノ地ヲ侵シテ夜戦ス俄ニ甚雨疾風ニ遭テ進退分合自由ナラサレハ軽ク濱松ニ引取給フ時忠勝人ヲ馳テ　源君只今御歸リナリ門ヲ開レヨトイヘトモ正成令シテ固ク鎖テ不開忠勝自ラ至テ門ヲ叩キ聲々ニ呼ヘトモ正成門櫓ニ上リ何者ソソコ卻ケ不卻ハ打殺セトテ鉄炮ニ火縄ヲ挾セテ下知シケル間

後軍支テ不進得忠勝此由ヲ人ヲ以旗本ニ告タリケレハ
源君一騎門際ニ乗来リ給ヒテ四郎左衛門ハアルカ我今歸
リタリト被仰正成御詞ヲ聞狹間ヨリ挑燈ヲ縋ケテ慥ニヨ
ク見定テ後門樓ヨリ急キ下リテ自ラ門ヲ開キ出迎テ入奉
ル　源君正成ヲシテ城ヲ守シメハ敵ニ謀將アリトモ
不可敢干トテ再三称譽シタマヘリ
武德大成
二股ノ城固ク守テ降ラス大久保忠世ヲシテ蜷原ノ砦ニ居
テ二股ニ逼ラシム是ニ於テ散樂ヲ召テ終日歌舞シテ將士
ヲ娛シム翌日懸川ニ至テ高名ノ城ヲ攻シム朝比奈又太郎
及ヒ天野宮内右衛門カ從士是ヲ守ル本多忠勝榊原康政ヲ
シテ二王堂口ヲ攻シメ　神君軍ヲ横川ニ移シテ鏡山
ニ登リテ敵ノ後口ヨリ城内ヘ攻入玉ヘハ朝比奈守ル支ア
タハス降ヲ請テ甲州ニ走ル
柏寄物語
酒井左衛門尉信長ハ元亀元年九月八日信長ハ小弟ナル女人ヲ娶テ称セ
ラレ九月八日亀城ヲ攻長篠籠城軍中ノ一也左衛門ハ者ノ巣ヲ
焼計策武功ヲ誉ル感ス　後世
攻ケ共織田家ニ感シ授ケ給
家忠日記
此月織田信忠正五位下ニ叙ス

六月十日美濃岩村を攻落す佐久間右衛門対陣言ひて水野
下野守報さる　神君御感ノ　傳通院様の大名也
森二股の依田右衛門変幸致し竜城と文明ふとる義とする能士
城攻を云作ひ防戦す甲列（加勢と信玄坂
出張）云早く城を明渡れと云作きて云國を隔て貢を
求ると云ふ云ふ事を甲列を依田氏を分（以ふ左様の
事ハ残念迄也書を以て云ふ事なり甲列諸代し者
なれ信濃士之世方する也ハ大久保彦左衛門と云者人質無方ふも
大久保彦左衛門を清和源氏二百城を渡ふの若安一百城大雨城を後
を見出ふ為ハ笠ふく八尺若ふ日和ふてと云送る
廿二百城を明渡す　神君御感ノ
廿七日六渡松平ふ左衛右衛門変田色城をする法ふ
後氏を信長を甲列を伊賀越格小笠ふ
節勝報（節送ハ自ふ方者ふ）云ふ
中ふる勝報を若小死ふを左様（左と節越後信長
討死すふも西人出版之源十郎ハ松平修理変康国中
彩六康勝右衛門変を甲列（勝ふ二股を大久保七郎右衛門云ふ

大久保彦左衛門忠教ハ二股小原之士事を渡り近藤氏小原之家ニ
那小原村伊勢物語かん原へ遷居後　台徳院様へ出仕城
又ハ新要地大将ハ出馬之
二度ハ三方ヶ原田口ハ長篠ハ高天神ハ長篠ハ信長ハ長篠ハ高天神ハ
一度ハ人数ハ多ク有ル松平左衛門尉右馬之助紙ヒ十八ヲ一番ハ城ノ外ハ
黄昏ハ味方ハ小原ハ方信長ハ人数討死ハ加藤ハ加藤ハ
加藤ハ加藤ハ我ハ先ハ働ハ先ハ後ハ我ハ先ハ働ハ先ハ
後ハ三ヶ原ハ石ハ家ハ出ハ討死ハ後ハ思ハ事ハ
臨終ハ

福谷ハ松平三郎左衛門尉

神君熊ハ陣屋ハ御業ハ
御ハ大切ハ福谷ハ御ハ近ハ人数ハ不数ハ大地源左衛門ハ陣代動ハ
信長御ハ小牧田ハ家ハ信大ハ後六月ハ有ハ早ハ上ハ
後ハ三ハ小牧人ハ長ハ兵ハ御ハ毎ハ程ハ数ハ者ハ来ハ
サ七日ハ家ハ公家ハ尺ハ日ハ家ハ別ハ孫ハ右馬ハ
榊ハ侍ハ川ハ伯耆ハ書ハ七月ハ日
徳ハ東ハ御ハ奥ハ信長ハ

内

天満頂戴ハ間近ハ家レンタイノ間ハ利ハ二ノ間ハ入事ハ

上原と二の間（八信長陣を張る所上原）
天顔を拝す尚附
（図）
穂東より新津迄陣退き代りに小姓役骨折の者は更に
新田分第一番第壱番宿信宵秀吉姫附の業績第壱
後前田又左衛門と佐藤又左衛門と後の業績第壱と云
有り同十五日京都を発し新田山城守佐藤紀伊
守分陣に入る第百八十間と云う処八町ばかり
天上の所（りゝ大橋）南北十九里東西十二里新田は下法師
の潟濃と云う所なり北潟と川の中に岩ヶ七ツ八ツ出る水深く
流れ行る所亜小流まで人馬共岩に躓かぬなし
の板小尺四方と云う赤小柳子数ひと云不有玉泉一トかの板の
石ころ流る米カとしかし米かしかる言する潟田は
橋玉泉と称する城有と云伝説を云十七日長根九日波阜海
七月十一日二番次市親後死去
神君掛川出迄前原訪原と出攻松平安八郎攻撃
吟時松平内匠野宮（歌る歌を進て来る詠分花上巻参
くと云歌花巻
（図）
上尚り角巻と云て門出す出味方後
引き進前城を攻て進所城清蔵天也私は

働ニハ無しかはくとも上ハ加藤儀之と申而ハ證文ヲ被下
十一日田中近江守家老松平周防守家老長田伊右衛門一番ニ鉄炮
ニて手負さる家来杉浦仁右衛門肩ニ打ツヽ手ニ働きく
仲右衛門を扨ム大坂ニ又兵衛ハ討死仲右衛門ハ死ぬへき所を
負たる。タイリと療治　　神居ハ先人数をて入ルと大久保又市
右衛門忠勝ニ而附之方敵を取て致合ニ而附又市右衛門ハ申之旦
居付て田中ハ城攻の致と申居候上意ヲ最ハ為之退口ハ誰乃
そめ根ハ不存申ハ存者ニ而附ハ城攻ハ仕と申同苗七郎
右衛門申て夫ハ誤ちもすしと酒井左衛門ニ申候の不断ニ論ハ人数を

早く入候城中より討てお出し西方ハ此所ハ城中より討ておま
しし西方へ引　　神居ハ引の時田中ハ人数討て出候ふを
慕ハ川をと之候後ニ而後黒野又兵衛鉄炮ニ而橋之左文字ニて射
殺す大久保七郎右衛門同名右衛門忠勝又兵衛を致か来る川へ飛ひ浜へ
追落す忠勝鉄炮所并とまる川中ニてハ手ハこくし名右衛門我を
踏台ニして并と云名右衛門ハうつむく背中へ手并歎を手負す
先たる所の者より城ハ證文ハ持ち鉄炮を許下ル名右衛門ハ證文
同廿日为居義右衛門元忠ハ諏訪原へ小物見ニ出る捏く郷ハ羽織
團扇を指城中より義右衛門と見て敵て并團扇ト二ツ服指鎧に

二ツ中ゟ弓矢ニて引ル左股を打抜き落馬東条松浦荘八
郎（源義経ニ従ヒ奥州ニ下ル）長谷川記二代目ハ小俣ニ出て討
死ス田ニ帝ニ奉ル二九郎相見ニ作ハ浜炮小中り死ス三帝奉ル
と云ふ方ハ降而相見ニ作ハ少ク対ニ郎も乳ハ〻ふるゑと
上意のハ一ニ多年八流訪東（人数を出す東条中根平九ニ
討死酒井雅楽助（白鷺を云ふ）
流訪東城を宝賀ハ流小泉年人ニ作日ハ後夜迄ハ
先ニ雅ヒ申ス
落穂集
文ゟ流訪北原の名代改め之ニ礼向後牧野城ニ引有

流作ニ
柏崎物語
取交ル大事北場ニ流小守を引ニ作ハ之ニ長大事取ル
中村小松井尼迄守ニ中ニ流院義松平ニ作ハ別松平周防
康親ハ勝牧を殿付小なそ（周防武田ニ）（周の家を
取周防ゟ）ニ作ハ松平周防ゟ康親ニ
ハ不ニ新ニ名ハ世称号ハ作ハ流者流事ハ又世秋出も
作ハ者ニ流事ハ流家智小ハ代ニ周防ゟ小城ニ郷後
河ニ作ハ小入ニ七年ハ（寛ハ）
信玄海中ニ横ハ流出小居ゟ中小深ハ

御譜代康の家を

長盛中助加入道江雲斎を尺せ小田列（岩ス信玄抵抗するを
為尺病者ニシテ不意歩ス今おく快少日早ク下ス系ニ第
江雲取日ハ〆ス系今屋風出て園ヒ内小ヒ小ヒ出ハ
信玄法中道遥斎の都を知ぬと英名なるものをかゝせ
信玄ニ云ヒ盗せるをとり〆物をいそせる江雲ニ第明り小
さゝめ記ハ小〆〆信玄病気弱ラれるとも出ヒ歌れ
物遥斎ニ信玄法中ハ能仕る前ハ無ヒ如
信長八月十二日岐阜を出ス数万の人数ハて系越前（ス系ス
加賀ハ松ハ本願寺ハ小ス系ハ越前を攻る始ハ今ハ前に
ハ入れる西信長ス系小畠信龍ハ岩ス又ハ中川言具教ニ云ハ信
具ニ云信長ス越前（ス入加賀ハ一向一揆大軍ヒ入れ
中ハ一向の大坊ハ石山ハ〆ス無田ハ今ハ本願の濃田ヒ羽会
武田恵系武系ス子信長（陸系又一向（陸系信長大軍ハて
ハ系前又陸系原田備中小云ハ数ス財ハ安井ニ名字ハ
殺ス信長ハ一向ニ寺ニ人数ヒ一皆ハ殺ス歌の首
七百余ハ氏一百二ヒ二百中ニ系ハ女子童ヒ切捨ス田村ハ名ノ
村ニヤウミヤウ寺ハ本願寺ハ殺ハ如ハ無田（ス働ク信長（
ヤ恩賞ヒ行ニ中ハ世ハ中ス知行ヒ中ス所ヒ

[illegible]出家の軍をして和睦を賞し[illegible]
書状を[illegible]の[illegible]頼寺[illegible]下小[illegible]法橋[illegible]居[illegible]と首とおて生て
勝家賞美状書状を[illegible]七里三河[illegible]信長[illegible]
信長ハ越前平均勝家等人の働き別無田越前と勝
家井伊兵部少輔ハ[illegible]無田越前ハ越前小の[illegible]居城する
今ハ福井ニ不破河内[illegible]内[illegible]他[illegible]又[illegible]無二人員分分
[illegible]無田おさその書状と[illegible]慶右二人を無田滅[illegible]
居る毎信長[illegible]彼阜[illegible]
奥[illegible]伝[illegible]伝達大[illegible]輝宗より[illegible]彼[illegible]信長[illegible]大[illegible]

十四[illegible]文[illegible]八[illegible]馬岩石墨石[illegible]を獻する信長[illegible]
[illegible]白石ハ[illegible]余小[illegible]帝居城[illegible]後南[illegible]　小[illegible]帝城[illegible]
[illegible]休出火城[illegible]帝[illegible]後[illegible]城[illegible]不通

武徳大成
同月廿八日　神君既ニ高明諏訪原ノ両城ヲ獲テ勢ニ
乗シテ小山ノ城ヲ攻シトス酒井忠次諫テ曰吾既ニ両城ヲ
獲タリ武田氏ノ諸城氣魄ヲ失テ次第ニ降附スヘシ今吾軍
外ニ暮ス支日久シ衆力或ハ疲ナン兵ヲ収メテ少ク他日ヲ
待テ可ナラシ勝頼カ勇信玄ニ過タリ今急ニ小山ノ城ヲ攻
ハ必来リ救フヘシ是全勝ノ道ニアラス松平康親カ曰長篠

ノ敗レニ甲州驍勇殆ント殲今我小山ヲ攻ルヒ勝頼救フ支
アタハシ小山ノ城既ニ拔ナハ高天神ノ城兵ハ攻ル支ヲ待
スシテ逃去ルヘシト　神君是ヲ然リトス忠次強テ諫
ル支アタハス遂ニ小山ノ城ヲ攻給フ駿州ノ舊將五人堅ク
守テ防戦ス吾軍石川數正松平康親先鋒タリ松平善四郎康
安先登シテ奮ヒ戦フ本多忠勝衆兵ヲ指揮シテ戦ハシム忠
勝カ從士中村與惣内山忠三郎小野田與市郎鎗ヲ合ス日置
三藏鎗脇ヲ射ル小泉彌八郎松下七兵衛土屋甚助戦死ス松
平又八郎家忠（後二主殿助）進戦テ首級ヲ獲タリ

柏崎物語

甲州ヨリ引取ル分ヨリ長篠ヨリ討死の濃州者生家ヲ人ヲ
還俗ヲ是ヲ待ヒ武功ヲ賞シ人數二万ヲ率ヒ家
出ヲ長篠ヲ
神君小山城攻ル入リ
右ノ通ニ
城西向ノ
ヨリハ所入ル
蒲生氏義も生ル人方ヨリ酒井左衛殿ヲ人數ヲ引ル

武德大成

戸田左門一西大津土九衛門等反リ戦フ支數回松平彦九郎
反リ馳テ歃ニ趣ク朝比奈彌兵衛是ヲ射殪ス（時ニ吾兵ニ木ノ桃燈ヲ掲ル者有敵兵ニモ又同シ）

指物有テ彦九郎誤リ見テ吾兵敵中ニ陷シリトシテ馳入テ是ヲ救ハントシテ朝比奈カ為ニ討シタリ

内藤彌次右衛門家長彦九郎カ妹聟

是ヲ見テ騎ヲ反シテ彌兵衛ヲ射ル其矢鞍ノ前後ヲ射貫ク弥兵衛逃去ル其弟彌藏継テ進ム家長又射テ是ニ中ツ其後城將芦田二ツノ矢ヲ以テ石川家成ニ遺リ弓勢ノ異強ヲ称ス

神君是ヲ称シテ胴服ヲ賜或謂家長カ朝比奈ヲ射タルハ六月二股ノ城ヲ攻ル時ナリト

服部次郎右衛門歇ト接戦シテ殆ント死セントス松平甚太郎家忠反馳テ是ヲ救フテ馬ヨリ下リテ歇ヲ斬ル其首ヲ獲テ服部ヲ扶ケテ皈ル人其勇壮ヲ称ス

一説ニ曰家忠カ乗處ノ馬ハ吉川ト名ク無双ノ駿馬也信長是ヲ求ム家忠是ヲ獻スタク人馬ヲ嚙テナレ蓄ヘカラス信長是ヲ還ス是ニ於テ又能其主ヲ知リ馳來テ膝ヲ屈シテ家忠ヲ乗セタリ

勝頼小山ノ城ニ入テ將士堅ク守ル ノ功ヲ賞シテ褒書ヲ與フ所謂蒲原小兵衛鳥居長太夫朝倉六兵衛朝比奈金兵衛村松藤左衛門望月七郎左衛門岡部忠次郎鈴木彌次右衛門等也

既ニシテ兵ヲ引テ甲州ニ皈ル二股守將依田下野病死六月下旬其子信蕃相續テ衆士ヲ撫育シテ固ク守ル大久保忠世蜷原ノ砦ニ有テ濱松ニ告テ曰二股ニ喪アリ其凶ニ依テ攻ン支可也

神君忠世及榊原康政等ニ命シテ合セ圍テ急ニ是ヲ攻ム信蕃急ヲ甲

刈ニ告ク勝頼救フ支アタハス速ニ城ヲ去テ飯ルヘシト報
又信蕃忠世ニ告テ城ヲ避テ去レト請フ忠世是ヲ濱松ニ申
神君許シ給フ信蕃質ヲ獻ス　神君モ又質ヲ信蕃ニ遣
ハサル十二月二十三日信蕃城ヲ出テ二股ノ河中ニ至テ各
質ヲ返シテ甲刈ニ飯ル或云高天神ノ城ニ入ト　神君忠世カ功ヲ賞
シテ二股ノ城ヲ賜フ
一説ニ曰阿部四郎五郎忠政ヲシテ相共ニ二股ヲ守ラシ
ムト

柏崎物語

信長十月十日彼岸を出立上洛(田)仕候出発之次第

(本文を欠落)

大坂を立て(ず)に(ず)山城へ道セウクロ(ニ)齋藤童二ケ月と云名
馬を進て花蹄仕当檜中納言殿御馬を以信長ゟ
巻物を以送威勢殊外頼寺殿御参ゟ相国寺殿宿
小て京中衆を集め大衆扶陽殿ゟ之宗易ゟ利休小西
世者ゟ片言迄者ゟ
孝謙天皇御廟を焼給小する事無ゟ毅ゟ衆
小て二ケ石有ゟ秀吉公遊せ給ゟ辞退大徳ゟ作
居士号を仕所ゟ利休居士少的ゟ名ゟ居

ある事ハ彩色ハ所〳〵無付たること法度也

信長相國寺ハ之居ハ内

禁裏ゟ御門書ハ

禁裏ゟ焼原ゟ信長様丹信ゟ〳〵建ワ

ゟ之ゟ利家様飯尾ゟ尼崎ゟ

十月初ゟ

禁裏御書ゟ信ゟ天正二年十一月冒頭大納言成国卿

右大将ハ勅使二條大納言実枝殿上様御参飯ハ月

禁裏御料理ゟ第〳〵大政入道様例ハ次第ハ信大政大臣ハ

ゟハ征夷大軍ハ下ハ

禁裏ゟ御上洛ゟ

城ゟ和信ゟ英濃岩村ハ秋山伯耆春近ゟ攻無城ゟ

ゟ之動九郎居城ゟ動九郎病死秋山攻ゟ動九郎妻ゟ

女房ハ之ハ岩ハ方九ゟ用別ハ質ハ中ハ動九郎妻ゟ信長様

伯母ハ信長服ゟ之長源様六月ゟ信忠ゟ出ハ攻ゟ城中

信濃侍大将ゟ之助左衛門ゟ七人籠ハ城ハ居ハ

糧ハ御ハ武具ゟ三河刈屋ハ城ゟ水地ハ中ハ方ハ出ハ

并と雖る後は長篠の敗北を聞き後法を用ひ（云長篠の大負
なり）織田方を敗方に（信長は伯母の婿有る故味方
中切ぬけ角しとする信忠に付浅さぬ様小さ（〜）ことを尚と
義城の東水精山の麓小わくと接（無と義史）対て
ある思ふ信不敬に城（近の）深力を信忠（隙を信長）隙
を以て小を信長為て立腹有河原（お）伯者を築に
終る伯母も彼皐（云系信長立）（云系い）と常ぬき打小
伯母を対よ義人〜弱く信忠を十一月廿〜百彼皐（後
信長を恨之木曽小木曽尼馬彼義正居迫ひ打つち小

居城を接（世示を方）（後〜）（〜）（〜）代間仕久間在来（村信盛刈
屋北水野下野守〜不和（信盛代下おを信長（後言ふ秋山
伯者〜ふ色する下敵ふ岩村（兵粮を送る〜を乱小武具
馬具を取り船送ると〜小信長腹を立　神君（右ふ節
上彼と出対小振小中送る　神君を先大樹寺下野小
系振節を系信長ふ下野（使ふん秋山（ふ通とある
為て左振小と〜侵小侍を添小沢（て添ふ系ふ中沢浅
一段〜中を〜附小〜途中小て池鯉鮒小〜酒小酔信長北
使ふを下野侍切殺を信長酒狂小事多数を不在〜方と

此ノ方ニ成ラズ　神君ハ第ニ信長ハ下野ヲ生害ス
ベシ旨ヲ送ラル依テ信長ハ逆賊ヲ久松
佐渡ト云ヒ捕ヘ品々尚ヲ下野ヲ城ヘ入ル信長ハ石川伯耆ヲ
差下野ヲ何ン形ヲ出ヲ大樹寺ヲ門前ヲ伯耆ヲ下野ヲ切殺ス
刈屋ヲ佐久間右衛門　ヲル娘一人男子一人有乳母ヲ乳母
ヲ行ヒ逃テ長篠ヲ城ヲ行ヒ石井ヲ家ヲ利政ヲ連行ヒ公
ヲ子ヲ家ヲ子ヲ家ヲ子ヲ家ヲ石井ヲ三郎利勝後大炊助ヲ
ヲ佐久間ヲ将ヲ四万石ヲ領ヲ
ヲ佐久間ヲ行ヒ方ヲ三郎ヲ三万石ヲ与ヲ

武功實録

ヲ別ヲ大事ヲ義
刈屋ヲ佐久間右衛門ヲ信長ヲ下ヲ水野ヲ下野ヲ信元ヲ
ヲ宜ヲ信ヲ元ヲ大炊ヲ助ヲ信ヲ元ヲ不和ヲ仲ヲ不ヲ
大ヲ信元ヲ云ヒ信ヲ元ヲ信ヲ宜ヲ信ヲ也信長ヲ波ヲ
懸ヲ迫ヲ事ヲ有ヲ
武功實録
水野下野守御成敗ノ時平岩七之助ヲ討手ニ被仰付候七之
助後任石見守甲州ヨリ金銀ヲ下野守殿ヘ贈進候返禮ニ鹽
ナトヲ甲州ヘ被贈候加様ノ事ヲ信長公ノ耳ニ下野守ハ信
玄ニ内通ノ様ニ御聞
權現様ヘ被仰遣候ニ依テ岡崎

ヘ呼寄成敗也後ニ内通ニテナキ由相知レ候或説ニ岩村ノ
城ヘ商買ノタメ鹽ナトヲ賣セニヤラレシト也本多佑渡守
下野守手ヲ取テ御前ヘ被出候ヘト被申候時平岩下野守ヲ
切候佑渡守是ハ何事ト被申候ヘハ平岩何ノ上意ニテアル
モノヲト申テ大刀ヲ討レ候引ハリ候テ切候ニ相見候
感狀記
秋山伯耆ハ美濃ノ水晶山岩村ノ城ノ戍將タリ信長恐テ秋
山ヲ姨婚トス信玄逝去アリテ後勝頼ノ時ニ至テ信長秋山
ヲ攻レトモ屈セス招ケ𪜈降ラス此時服部ト云者有始メ勝
頼ニ仕ヘタリシカ後信長ニ從フ信長服部ヲ召テ秋山ヲ滅
スヘキ良策ヤアラント尋ラル服部カ曰城固ク將勇ナリ今
別ニ良策ナシ然レ𪜈心ノ表裏ト申事ノ候マツ欺キテ見候
ントテ攻守ノ士卒城ノ内外ニテタカヒニ詞タヽカヒヲス
ル時夜ニ入テ服部隍際ニ至テ汝等何ソ愚將ノ禄ヲ食テ自
ラ愧サルヤ龜井善六ハ秋山妻ニ密通ス秋山是ヲ不知是主
不明ニシテ下不義也ト云秋山是ヲ聞テ詞タヽカヒヲ制止
ス龜井ハ秋山カ寵臣ニテ驍勇ナラヒナキ者也出テ戦フ時
ハ鍵ヲ腰ニ付テ首ヲ取テコレヲ懸ク空キ事ナシ其寵ニ怕
シ其勇ニ服シテ士卒ヨク法度ヲ守リ心ヲ同フス服部カ詞

タヽカヒヨリ歟ナレハ訟テ是非ヲ糺スヘキ相手モナシ秋山イカヽ思シヒト愧ル心出來ニケリ秋山カ閨ノ奥婦女ノ内ニモ晝夜トナク出入ホトノ昵近ナリシカトモ漸ク遠サカリヌ秋山ハ却テ龜井カ遠サカルヲ疑ヒテ顔色常ナラス龜井イヨイヨ鬱々トシテ自ラ安シセス一封ノ書ヲ残シテ曰臣罪ヲ侵ストイヘトモ更ニ人口ヲ閉ル支アタワス誤ナキ事ヲ死ヲ以テ顕スヨリ外ニ道ナシトテ深ク歟軍ニ入闘没ス是ヨリ秋山カ家臣龜井ニ及フ者ナリ互ニ威ヲ爭テ二人別心シ秋山ツイニ亡ケル

武德大成

天正四年丙子 皇朝ハ正親町院 武家ハ織田信長

家忠日記

正月大廿日例ノ如ク御鎧ノ賀儀アリ諸士濱松ノ城ニ參賀スヌ今日連歌ノ御會アリ去年天正三年ヨリ今日ノ連歌ノ會ヲ始テ催サル是ヨリ例トシテ毎年此式アリ

柏崎物語

天正四年正月御連歌百韻御具足ヲ以テ始メ給フ慶御例ノ如ク成ル亀井戸信祐信圓信政信祐ハ始メシ分ル沙門地寺社奉行松平自向ヲ出入御連歌ハ内ノ所成ル顔是ハ花下十人ヲ除ク外ヲ以テ御例也ト云信祐云御例ヲ〻ハ云ハ字ヲ十一ノ下ホトヽ書十一人ヲ可ル字夫今御連歌ハ内ニ加ル

天正元年信長四十二歳伊勢ヲ攻ル国司ハ畠具教入道不知哉
年始ノ後高ハ尾張ノ尾石見ノ城ヲ攻信長氣ハ不入ノ
らひあり〳〵ハ知ル事ヲ股信雲ハ密通ノ
信雲ハ死去柳田ノ町ヲ埋首塚ト云町ト云
尚春ヨリ安土ノ城普請大工ハ弟又右衛門ハ作事後藤平蔵
近畿内西ハ二重 内西ハ細工宮番勇左衛門メシ方カシラ
刑部尉一人ナラノ者ハ小和ノ山ヲ焼セリ
耶蘇宗門専ラ信長ノ寵ヲ宗旨ト云事ヲ知ル安土
の城下ハ切支丹ノ寺ノ城ハ大ク今ハ信長ハ居ル所ノ阿

蘭陀ヲ吸ハ沙ノ住居ヲ営ハ〳〵ハ
小西ヲ世二重ハ二重ハ
武徳大成
武田勝頼吾軍ノ二股ニ克ツ支ヲ聞テ甲斐信濃上野ノ兵ヲ
集テ遠州ニ出ントス時ニ上杉謙信兵ヲ沼田ニ出シテ西上
野ヲ侵サントスト聞テ南ニ出ル支ヲ得ス是ヨリ嚮立テ謙
信　大神君ト好ミヲ通シテ使ヲ往来ス且又書ヲ松
平左近真乗石川日向守家成植村出羽守家政ニ賜テ約信ヲ
固フス是ニ至テ二月七日謙信又書ヲ酒井忠次ニ贈テ謂ク
勝頼上州ノ兵ヲ發シテ二股ノ城ヲ援ントス我是ヲ率シト

欲シテ沼田ニ至レリ今月十六日必ス西上野ニ放火スヘシ
神君其機ヲ失ハス兵ヲ出シ決戦アラハ必ス利有シ
神君是ニ於テ兵ヲ犬井ニ發シテ樽山ノ城兵ト戰ヒヲ挑ム
氏政壘ヲ固フシテ戰ハス

家忠日記

三月大十七日　大神君松平甚太郎家忠松平周防守康
親ニ連書ヲ賜リ采地ヲ宛行ル

一今度氏直領國被府入國牧野右京亮殿御使中付
被別山東御行ゝ宛行事付出被申候ゝ方
中付て御動事

一山東無一偏ゝ山西御御行ゝ出ル事
一對氏直領國矢見御不令疎略ル事
一上杉ゝ條企逆ゝ西陣中紀明憲法の如ク無事
一後歌地為忠義被賞ゝ遠ゝ方ゝ為ゝ同ク
所付ル事
右ゝ條ゝ條ゝ年自今以後競ヲ人陣有ゝ
一切上ゝ許容永ゝ遠不ゝ者也

天正十八年庚子
三月十七日　家康

内閣印書

家忠日記

六月六日酒井雅樂頭正親卒ス正親病痾危急ナルノ時
大神君彼カ疾病ヲ訪ヒ玉フ正親カ宅ニ渡御アリ御チツカ
ラ御藥ヲ賜テ思フ支アルニ於テハ聊モ憚ル耶ナク遺言ス
ヘキノ旨釣命ヲ蒙ル正親其懇情ノ厚キ支ヲ謝シテ正親カ
嫡子与四郎（後河内守重忠ト号ス是雅樂頭忠世カ父ナリ）二男与七郎（後備後守忠利ト号ス是讃岐守忠勝カ父ナリ）ヲ
大神君ノ御前ニ呼出メ正親云テ曰ク我思フ支他ナシ此二
人　君ノ御哀憐ヲ受テ忠義ヲ尽シ其器ニ依テ奉仕セ
ン支ヲ願フ　大神君是ヲ諾シ給フ平岩七之助親吉ヲ
メ正親カ病中ニ付置シメ玉ヒテ還御アリ其後近臣等ヲ以
テ屢彼病ヲ問セ玉フ

柏崎物語

七月中旬　神君乾に沙を義家門右衛門途中に防
物度ゝ六大原大炊大膳平左衛門ゝ本陣ヶ宮義働ゝ
手紀す名居郎士安義九右衛門ゝ義働て歌小文包
ゝ　神君清水紅育て後番安義義兵衛
仕ゝ下ゝ紙て鉄炮ゝ扶ゝ迎け九右衛門とすゝ水野
勢兵衛白紙帯に指物小て能ゝ虎口義ゝ地義

[illegible]

落穂集

天正四年　犬井（伊勢）[illegible]

[illegible]

武徳大成

十三日　大神君諸部將ニ告テ曰吾北條ト相約ス十七日軍ヲ駿州ニ出サン各兵ヲ師ヒテキタリ會セヨ是日大須賀康高兵ヲ率高天神城下三峯山ニ至ル（駿府ヲ去ル支一日路程）此夕勝頼駿府ニ至テ吾軍ノ去ルヲ聞テ大ニ悔恨シテ曰長篠ノ役ニハ戰フヘカラスシテ戰フ此役ハ戰フヘクシテ戰フ支ヲ得ス是我運ノ末ナリ既ニシテ氏政兵ヲ引テ小田原ニ入ル勝頼モ又去テ甲州ニ皈ル

柏崎物語

大坂本願寺志法長と忘れる中國安藝毛利大法主

俗ニ法大江元就也二代目輝元安藝廣島小居城也

本願寺ハ[illegible]廣島ヨリ本願寺ヘ兵粮を入る所今有

既小笠原を入亂せ信長公を頼寺毛利と談ぜ義

古人物語

伊賀國音羽村ニ罷在候城戸彌左衛門ト申者信長公へ鉄炮
打カケ申子細ハ大坂ニ御門跡御在城ノ砌信長公ト御不和
ニ付御門跡ヨリ山城國宇治田原村ニ罷在候澤ト申者ヲ御
使ニテ城戸ハ鉄炮ノ上手其上人ニ勝レタル者ト被聞召及
候間信長公ヲ何方ニテモ討留候ハヽ御厚恩可被仰付候由
御頼被成候故子細御座有間敷ト御請申心懸申候處ニ信長
公何方へ御越被成候時ノ事ニ候哉其段シカト覺不申候膳
所表御通ノ節海道ハタニ深キ森御座候ニ付城戸森ニ隠し
居鉄炮ニテ打申候処信長公へサシカケ申候御朱傘ノ柄ヲ
打折御身ニアヤマチ無御座候其時御手廻ノ御人數カケ廻
尋申候得共兼テ蓑笠鍬用意仕農人ニ紛レ御穿鑿ノ聚ヲ逃
本國伊賀へ無恙罷歸候支
何方ニテ候ヤ其段ハ致失念候翌日信長公へ城戸御菓子持
參御目見仕候其時信長公被仰候ハ昨日膳所ノ海道森ノ内
ヨリ鉄炮打カケ候定テ伊賀甲賀ノ者ニテ可有之ト被思召
候間城戸穿鑿イタシ申上候得ト被仰付候其段畏入候ト御
請申上罷歸候事

伊賀國九柱村ト申取ニ宮田ト申者御座候此者城戸ニ遺恨
在之ニ付信長公ヘ彼宮田訴人ニ罷出候ヘハ様子御聞届被
成左候ハヽ城戸ヲタハカリ召捕上候様ニト蒙御意罷歸城
戸方ヘ和睦仕タハカリ事申信長公ヘ近江ノ牢人我等モ御
奉公望ミ存候間城戸召連被参致訴訟呉候ヘト宮田頼申候
城戸同心不仕候處ニ宮田起請文ヲ以城戸ヘ無悪心候間是
非頼ミ入由申ニ付宮田並近郷ノ牢人七八人モ致同道信長
公ヘ訴訟ニ罷上候路次ノ宿ニ兼テ宮田申合昼休仕候折節
何レモ目薬サシ申候城戸モサシ候ヘト申ニ付城戸モサシ
申取ニ目薬ヘ加物兼テ仕置候故眼クラミ及難儀候處ヲ七
八人ノ同道ノ者トモ前廣申合置候ヘハ捕ニ掛候ヘトモ城
戸強力者故取ホクシ申候取ニ城戸刀ヲ拔散々ニ切チラシ
手負多ク出來申由乍去城戸眼クラミ其後堀ヘ飛コミ水ノ
中ニテモ隨分働候ヘトモ長道具ニテ押ヘ終ニ召捕信長公ヘ
サシ上申候支
信長公城戸ヲ召捕差上申儀御感ニ思召宮田殘ノ者ニモ御
褒美被下由城戸ハ數十人御番被仰付翌日御直ニ御尋被成
候ハ如何成者ニ被頼鉄炮打候ヤト再三御尋被成候城戸申

上候ハ誰ニ被頼候儀ニテモ無御座候伊賀ノ國ヘ度々御人
數被遣候ヘハ遺恨ニ存上様御一人討捕候ハヽ名聞ト存乍
恐仕候私打ハツス者ニテモ無御座候ヘトモ上様ハ御運ヨ
ク私天理ニ不叶打ハツシ申候然處ニ宮田メニタハカラシ
御前ヘ被召出候事無念成次第ニ御座候此上ハ片時モ早御
成敗被仰付候様ニト申其後ハ御穿鑿モ無候サテ明日御成
敗ノ由城戸兼及其夜路銀取出番ノ者ニ酒抔振舞ヒ候ヘハ
殊ノ外下々酒ニ給酔前後不存卧候處城戸足ニテ番ノ者刀
ヲ取頸カ子ノ綱ヲ切其取ヲ逃出林ノ中ヘ飛入頸カ子ハツ
シ申處ニ番ノ者聞付大勢タイ松出シ尋ヨセカケ候ヘハ少
働候ヘトモ右ニ數ケ取手負申候故身存様ニ無之候ヘハ難道
存歟追拂人手ニ不懸自害仕候由申傳候右之通伊賀甲賀ノ
者普ク此儀存候以上

柏寄物語

信長謙信ヲ又たのもしくとゝ[illegible]小國ハ方ハ[illegible]
大[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]人殺[illegible]信長謙信ヲ
ちゝ[illegible]る謙信カキ[illegible]和泉守一の家ハ大津ハ城代ハ[illegible]
謙信ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]謙信ハ[illegible]
なり[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]柿[illegible]秘[illegible]ハ[illegible]

有馬けうとる藤原して上方へ掛小豆を安土へ持行小
國より掛馬第の毒絶馬仕り其を和泉のひさ〻より馬絶
何成掛信長ゆゑ〻反間仕て茂り成ゆゑ〻成んて毒絶
ゆゑ明代を渡し〻家来を沈をして〻紙の馬にのゝ〻ハ全て
ゆゑ絶りて〻家来小藤兵衛と申〻れ和泉へ状中〻紙馬
ゆゑ〻せ大変を礼して虎皮弱皮を送掛藤へ
家来を色を掛藤を反間仕ゆゑ事を合点して奪
を事と藤信へかゝて同年掛藤信長へ内通をすると云
藤信をいろ〻にゆゑ〻ゆゑ〻ゆゑ〻ゆゑ〻と

ゆゑ〻人数を引掛藤へ向〻〻いゆゑ〻紙みさのゝさ
大将と思ひゆゑ〻ゆゑ〻中伏をするハ侍比奥〻ひ竜
城をゆゑ藤信せしゆゑ掛藤後を切〻死す 図 藤信も
信長仕反間小屋入ゆゑ〻ゆゑ〻会小を野大仕ゆゑ失ゆゑ
信長〻掛分を切小城信長を又重仕大ゆゑをたてゆゑ
安土仕換ゆゑ系繁昌大ゆゑ仕法永德書永川ゆゑ
八月後河へ出を長勝彩ゆゑ中ゆゑ中月元出帰を彩
天正十年迄を大ゆゑ成ゆゑ出取合彩〻
家忠日記
八月大織田信忠従四位上ニ叙ス

此秋　三郎信康三州大濱ノ郷主長田平右衛門尉重元カ男
傳八郎ヲ召テ始テ御家人ニ属ス　傳八郎後ニ長田ヲ永井ニ改ノ右近大夫ト号ス

柏嵜物語
長田傳八郎少人数抜おこなし長田ハ主を殺名字を
改よとて永井と成後、永井右近大夫直勝と申ハ此者也
先祖の長田ハ主を討しと云名を嫌て遠之　満仲時ニ　満仲か
上座様との申ハ上方へ聞え義朝討ハ世話ニ成にしに
緑ハ八重を討て名を遠なり其上代より申傳
神君ニも左様ニ御申候ハ、左様ニも可宜し
三郎信康様踊を御好被成大小様々踊ヲ御用ひ候ハ
能きもの之
　諸士共に松坂を越て嫁しやうを被仰ふ
其後ハ度々御踊初りハ御家来皆踊候て其後を忘す候
家老衆今川乃者共ハ子ニ似たりとて眉をひそめ云おとし
神君御聞被遊御承知不被成候事之也　三郎様を御ほめ不
たゝ御一代の御生付荒くれ事斗ニ信康中を御使候
信長の娘　疾妬深く御女子斗三人出生乱世ニ男子を不産
候ニ付不足ニ被存　三郎様　御母公月山殿も左様ニ被存候
方にて御中悪敷御座候とも悪く思召候も不宜

岡崎三郎殿ニ奉仕ヘタル高力小隼人若年ノトキ　三郎殿
御供仕テ殿守ヘアカリ候　三郎殿猛歟ノ前ヘ進テ出ルモ
ノアリトモ此殿守ヨリ飛モノハアルマシト宣フ小隼人コ
レヨリ飛申支モヤスキ支ニテ御座候ヘトモ歟前ニテ働ハ
功ニ立テ人ノ褒美仕ル支ナリ此ヨリ飛フハ身躰ヲソコナ
フタハカリニテ功ニタヽサルコトナルユヘ飛申サヌニテ
コソト申上ル　三郎殿ホカ云處尤ナレモ臆病ニテハトハ
レマシキソト御意ナサルシハ言ノ下ヨリ小隼人走出テヽ
飛候ソレニ付怪我仕一年ホト引籠養生仕テ漸平服仕候後
三郎殿御生害ノ以後　御父子ノ間ニテモ事ルコトヲ
イサキヨシトセス　御家ヲ去テ蒲生氏郷ニ事ヘテ壹
万石領知又其時ハ八橋下總ト云大河内休心老妹聟也

續開談

依橋氏の流ホ日南付世ホ行ケ家共二別後風説紀新
偽書ホ依橋表又帝事
岡崎ニ帝橋伊ホ住ケリ
侍事共金屋本分共大小を盗九田別ヘ行て橋形ホ行ケ
事と共て愛書の世ニ重却して法人も共集め書ホ
ヨリ表く紙数をうさ共賣く共利をもさほる淺野成後
小林正甫共ハ空妄共流を改ス事実ホうされさそ共

彼作楯を弓帝と中ハ大伴黒須作楯義房ハ義賢同級
作楯源左衛門尉為朝ハ義弓帝と同級の作也と故ニて
教害し二見小藤居すれハ小二別小山城黒小田別
より竜蛇五利ハ弓帝と二帝を教害し其ハ作動を御免ハ
むとの　信濃様源小依て義弓帝能留を吹しハ
ハ竜蛇と中蛇五利小付小或ハ其弓帝ハ勝敗ハ
ハ弓帝二帝留球吹せ中ハ義弓帝教害して協ハ
甲別義仁と合戦ハ付も水野勝成ハ同しく進んて負
ぬ或ハ其弓帝ハ次ハ間小ハ義仁　信濃様五利ハ

其弓帝を一ハ付ハ哀様を加へ石ハ小ハ新を作楯めて
ひとひぬハ弓帝二帝ハ寝首を切ハ余り情なしと上言ハり
しハ中ハて出小ハすと球ハ中ハけくハ不勤と　御家と三郎
高賀丸小ハて朝鮮國（後ハ慶長ハ来りハ）ハりて朝鮮
國ハ後朱朝ハ御用見ハ後上言小中ハ一人を見給ハ
やと老中（ハ）ハ弱ハりしハ小不見給ハ名言上ハりと時
ハれハ作楯義弓帝と如くさ奴めハるて御言ハり一ハ
御尋ハ如ハ変て不移しと中上ハる給ハハ文通ハ書ハ南と
上言小ハくハと信ハ朝鮮國（西ハ）ハ彼信使も我ハ博ハ

日本小ゆきとも對面せて祖父小名ゆ可ゝ久（さと名ゆ面
ヤ久ゝと云ゝ後ゝ芸州ゆ浦ゆ小沈橋一家小朝鮮ゆ使ゝり
人参ゝ多貰けゝと云ゝ彼刀ゝ盗武ゝ之斬罪況小之ゆ也

柏崎物語

信長ゆ國ゆ入ゝ小入謙信可ゝ後ゆ家ゝ謙信ゝ為ゆ彈（乱入
後國人ゆ為ゝすシラヤ越前ゝ之降ゝ越前國人ゝ引分
謙信越中（ゝ之ゝ信長ゝ越前（人数ゝ出ゝ亟河国ゝ為ゝ長頼
と謙信取ゝ三十二万石ゝ成男ゝ取ゝ也亟江大和ゝ之ゆ
山城ゝ之ゝ亟ゝ人の悴ゝ之男ゝ中ゝ取ゝ家老ゆ岩子城
後山城ゝ三十二万石ゝ成扱謙信ゆ越中ゝ攻城ゝ明

波ゝ小笠原長ゝ入亟越中大形謙信小附扱信長小ゆ
と之扱謙信ゝ加賀（ゝ之ゝ之ゝ小ゆ（入能登（ゝ侵ひ
之扱富山ゆ帰ゝ小人退之ゝ謙信無ゆ帰ゝ筋目ゝ
ゝ子ゝ小ゆ彼ゝ越後ゝ謙信縁者ゆ出ゝ扱上陣ゝ云
所小居ゝ上陣ゝ名ゆ出ゝ（岩子ゝ彼ゝ之ゝ謙信ゝ國元（
之海帰陣ゆ武雪ゆ一揆小蜂起ゝ謙信ゆ事ゆ（
頂小ゆ之扱ゝ之ゝ謙ゆ河田ゝ前武拾ゆ町ゆ小
居ゝ小遅ゝ知ゝ雪ゆ中ゝ越ゆ一揆ゝ近ゆ
廿八日國ゆ（ゝ之海天正ゆ年也

十月朔日　神君濱松ノ城ニ皈リ給フ九日今川氏真ヲ濱松ノ城ニ饗ス此秋勝頼駿州ノ舊將岡部丹波守信州ノ舊將相木某上野ノ士族數十人及ヒ百石主水大河内傳左衛門等一千余人ヲシテ高天神ノ城兵ニ代テ是ヲ守ラシム江馬右京亮横田甚五郎ヲ以テ監軍トス十一月十一日　神君濱松ヲ發シテ懸川ニ至ル十二日軍ヲ横須賀ニ移シ十五日濱松ニ還リ給フ廿四日甲州ノ兵後田中ノ城ニ到リ廿六日高天神城ニ入ル廿七日吾軍出テ見付ノ驛ニ陣ス是日甲州ノ兵国安ヲ去テ駿州ニ入ル吾軍還ル

天正四年十月廿日信長任官大臣同月廿又日小島ノ和泉を
殺害ス和泉家ハ信雄家ノ小鳥をさし小出
伯耆守事ハ信雄信長（ノ弟）信長之股肱信雄と同通
有しかも和泉ハ不屈ノ者ニ討ヲ取ル和泉
を巨燈小ゆり二ツを焼しに居所（ニ）二人ノ子ハ行方知
らずのるかついてこれやおのれ〳〵ハ我ホと殺小ホ
さは討ハ働く絶ハすく免討ハ和泉一人ハ逃ル働
く二ツをも巨小殺を小島濱代ハ其ものを働けを作ホ
居屋敷ハ先生ハ内迎ハ業者ハ生ル人殺を生ホ

戦之間火を掛る小舟に拵百首程屋風小張弁当方弁当
世良焼炙之肴方八元年宗長法師（其今世上小者之
光仏寺小島中将信長之不知敵也乗之攻之彼を
云々南都へ逃出人之中将信長と云々肌満少（姫）
信長と云行出不自由也廻小城所と信長より不知敵
其娘を信長の娘にして信雄を養子に成程に養
子に成程之通小ゟ
信長陣ゟ出云々帝之別（雪野）弁第十冒頭遠国
義清公其頃小田沈を移ゟ

明良洪範

天正四年丙子奥平九八郎信昌長篠ヨリ新城ニ移リ築本九
此時吉兆ナレハトテ彼城ノ門柱ヲ以テ當城ノ門柱トス又
同刈吉田ノ城門ニモ長シノヽ城ノ門柱ヲ引取門柱トス
神君ノ命ニ依テ両城門柱ニ立ルト也

柏寄物語

同廿九日右近清信出羽守轉任
山田十左衛門利勝仕奉勤仕
勤仕弁肴お人ゟ
十二月廿二日信長右衛（雪野）二百遠国信長様之年ゟ
神君奥平九八郎方（御入輿也）守姫様ゟ

[illegible]流小系美濃加納小[illegible]入加納城[illegible]後京[illegible]
[illegible]出[illegible]頃[illegible]事[illegible]　台德院様[illegible]大事小[illegible]遊[illegible]事[illegible]後
[illegible]
結城[illegible]六万石[illegible]家[illegible]名字[illegible]文十二万石[illegible]
笠川水谷[illegible]親[illegible]中川一[illegible]武者[illegible]小[illegible]水谷右[illegible]文[illegible]村
[illegible]クウ[illegible]結城[illegible]大[illegible]内[illegible]多[illegible]笠川[illegible]名[illegible]水谷[illegible]人
[illegible]大将結城[illegible]大[illegible]之
神[illegible]
関八州[illegible]馬[illegible]入[illegible]
中[illegible]晴友[illegible]結城[illegible]

感状記

結城ト多賀谷ト郡縣ヲアラソヒテ年々相戦ソノコロ金井善立トテ越後ノ上杉三郎ニ仕ヘタル士也シカ景勝軍ニ勝テ後日光山ニ引籠リテソ居タリケル年ハ七旬ニアマリニ三十度ノ場數有老功ノ武者ナリ結城コレヲ招キテ崇敬セラル一日多賀谷方ヨリカツ田ニ出ルヲ結城ノ士聞トヒトシク馳付十余人討取ケリ善立一番ニ出合取タル首ヲ手ニ提テ結城ノ傍ニ候ス結城見テ憚サルノ色アリ壯士段々ニ首ヲ持来リテ一二ヲ記ス結城家軍法正キカ故二番ト記サルヽ者臣ハ二番ナリ一番ハ善立ニテ候ト云結城善立ヲ責

テ今其方ヲ扶持スルコト上杉家ニ於弓矢ノ功者ナレハ我
左右ニアリテ若輩ノ者トモヲ下知シ詞ヲ添カヲ付テ功名
ヲモサセラルヘキタメ也今日ノ一騎働大ニ義ニアタラス
其方二三十度ニ及テ世人ニ知ラレタル武名アリオトナケ
ナク是程ノ小支ニ先ヲ争ルヽ者カナト氣色ヲ損シテ規サ
レケレハ善立諍テ跪キ仰畏リ入候サリナカラ臣カ所存ハ
此ニ異ナルコト候少ノ心馳アリト申ハ古主上杉家ニテノ
コトニ候他家ノ功ヲ衒テ當家ニ賣候支ハ士ノ道ニ背ケリ
臣七十有余マコトニ若氣ニ相似候ヘ共見合聞合スル間ニ

手後レニ成テイツモ人ニサキヲ超ラルヽ物ソト云キ

古人物語

小山結城ト取合ノ時歓沼田ヘ突倒サル味方首ヲ取ラレト
イヘハ大將ヒサキト云者サテ〻武功ノ者也助ケヨト云テ
生捕ニシテ来ル疵ヲ療治スヒサキカ母粥ナトクレ能者病
シテ以後ニ此方ノ者ニナレト云芳志ニハ早〻暇ヲクレヨ
ト云サテ結城ヘ歸ル其後小山没落ノ時生捕ニ老女有ト云
ヲ聞テ不蕃ニ思ヒ見レハ彼老女也昔ノ芳恩ヲ謝シテ能育
ミケルトナン

武德成業卷之十一終

内閣圖書

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan